

会報

第127号

令和5年9月1日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
Tel 025 (265) 41111
Fax 025 (265) 41112
発行：文久堂



特別支援教育の 一層の充実を目指して

新潟県特別支援教育研究会
会長 江口 滋

先日、あるクリーニング店の作業場を訪問する機会がありました。作業場に入ると作業を進める従業員の動きに目が留まりました。ゆっくり、しかし丁寧に作業を進める様子です。時々会話を交わしながらも自分の持ち場で作業に打ち込んでいる様子から、自信をもって取り組んでいるように感じました。このクリーニング店には障害を持つ人が数名、従業員として働いています。わずかな時間でしたが、仕事ぶりから、それぞれの人が歩んできた学びの足跡に思い巡らす機会にもなりました。「学齢期の良い学びは、長い成人期の安定した生活へとつながる大切な宝となる。」彼らの姿から、以前目にした論説の一部を思い出しました。障害者基本法第1条には、「障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共存する社会を実現する」と記されています。訪問したクリーニング店の作業場に、目指す社会の具体を見る思いがしました。

さて、今年3月、文部科学省から「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援に係る方策について」（通知）が示されました。通知では、障害のある子どもと障害のない子ども

が可能な限り同じ場所で学ぶための環境の整備、よりインクルーシブな社会の実現に向けた取組の充実を図ることが求められるとしています。これは、令和4年12月に公表された「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」を踏まえたものです。とりわけ、通常の学級に在籍し、学習面または行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合（小中学校において推定値で8.8%、高等学校で2.2%）が示されたことは、ご存じの方も多と思います。

特殊教育から特別支援教育への転換を機に、特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導及び支援の充実が確実に図られてきました。これまでの成果を踏まえ、特別支援教育の理念に基づく指導、支援は、すべての教育の場で求められています。UDLガイドラインを基に児童生徒の多様な学び方を踏まえた授業の改善も、そのひとつにあげられます。

障害の有無にかかわらず、人が持てる力を発揮できるようにするために、学校における特別支援教育ができることは何か、少し大きな視点から眺めてみることも必要です。

新潟県特別支援教育研究会は、特別な支援を必要とする児童生徒に対する教育の推進を図ることを目的としています。今年度も児童生徒一人一人に沿った教育活動を進めていくことができるよう情報提供、情報共有に務めてまいります。

令和8年度には、全日本特別支援教育研究連盟主催の全国研究大会を新潟県で開催する予定です。これまでの取組を全国に発信するまたとない機会です。全国の方々との情報交換を通して新たな視点や取組を得る機会にもなります。具体的な取組については今後、お知らせいたします。よろしく願いいたします。

令和5年度 主な事業について

○理事会・評議員会

- 第1回理事会・評議員会
(対面とZoomによるハイブリッド開催を実施)
- 第2回理事会・評議員会
(2月にZoomによるハイブリッド開催を予定)

○研究大会

- ・上越地区柏崎刈羽大会（8月4日実施）
- ・中越地区魚沼大会（11月9日実施予定）
- ・下越市区新発田市大会（11月24日実施予定）
- ・佐渡地区大会（今年度は開催なし）

○研究部会

- 知的障害部 自閉症・情緒障害部
- 肢体不自由・病弱・身体虚弱部
- 言語・難聴部 視覚障害部
- 特別支援学校部

○全特連関係

- ・全日本特連全国大会徳島大会
- ・関東甲信越地区大会栃木大会

○会報

- ・127号（9月）
- ・128号（3月）

よりインクルーシブな方向へ



県教育庁義務教育課
特別支援教育推進室
室長 根谷 聡

1 はじめに

会員の皆様には、本県の特別支援教育の推進にご尽力されていますことに敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、制限されていた教育活動の再開が進んでいます。文部科学省からは、単にコロナ禍以前に戻るのではなく、GIGA スクール構想の下で生み出された工夫を取り入れ、新しい学びの在り方へと進化を図っていくことを求められています。交流及び共同学習等の特別支援教育に関わりが深い教育活動についても、再開や進化が望まれます。各種感染症の流行への不安が続いていますが、医療的ケア児や基礎疾患児等に十分に配慮しつつ、積極的な取組をお願いします。

2 国の特別支援教育に係る動向

本年3月、文部科学省の「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議」の報告が取りまとめられました。この報告では、小中高等学校等の特別支援教育を必要とする児童生徒の増加や、昨年9月9日の障害者権利委員会対日審査における総括所見及び同年12月13日に文部科学省が公表した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」等を踏まえて、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り同じ場で共に学ぶための環境の整備をはじめ、よりインクルーシブな社会の実現に向けて関連施策等の一層の充実を図ることが求められています。

具体的な提言として、適切な指導や必要な支援を組織的に行うための校内支援体制の充実、自校通級や巡回指導をはじめとする通級による指導の充実及び担当教師等の専門性の向上、特別支援学校における小中高等学校等へのセンター的機能の充実、特別支援学校を含めた2校以上の学校を一体的に運営するインクルーシブな学校運営モデルの創設等が示されました。

文部科学省は、これらの提言について、本県を含む全国での状況の把握に動き出しています。急な変革にはならないと見ていますが、よりイ

ンクルーシブな方向へとシフトしてきているという認識のもとで、今後の取組の具体化を図っていく必要があると受け止めています。

3 県の特別支援教育の現状と課題

本県においても、先述の提言に関わる取組が進められ、課題認識が高まっています。

昨年12月公表の文部科学省の調査結果では、小中学校の通常の学級における「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒の在籍割合は8.8%で、10年前の調査から2.3%上昇しています。また、特別な支援を要する子供の就学判断がより適正になされるようになり、特別支援学級の在籍が減少し、通常の学級の在籍が増加しています。これらのことから、今後は通級による指導の利用者の増加が見込まれます。通級指導教室の利用者13人につき教員1人を定数とする基礎定数化の動きも考慮すると、現状では本県の通級指導教室は全体に不足状態であるため、各市町村で必要な教室の設置を急ぎ進めているところです。同時に、専門性の高い担当者の確保や育成も課題となります。通級による指導の利用者を含む特別な支援を要する子供への確実な対応のためには、通常の学級の担任等の専門性を高めることも急務となります。

インクルーシブな学校運営モデルの創設に関して、本県では、一体的な運営はありませんが、特別支援学校と小中高等学校のいずれかが同一施設内又は隣接して設置されているケースが複数あります。そこでは、日常的な関わりや行事等を通じた交流により、子供たちの共生意識の向上や思いやりの心の醸成が見られます。よりインクルーシブな社会の実現に向け、将来的に一体的な運営へ向かうことも見据えて、まずはこれらの学校だけでなくどの学校においても交流及び共同学習を積極的に進め、活動や運営の在り方を検討しながら次のステップを探っていくことが課題と捉えています。

貴会の皆様には、各人の立場で関係の取組の一層の推進をお願いします。

4 おわりに

本年4月にこども家庭庁が発足し、各省庁間の連携体制を構築し、家庭・教育・福祉の連携を一層推進することになりました。一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた特別支援教育との連携が重視されていることから、貴会の取組がこの推進に大きく貢献するものと考えます。このような情勢も踏まえ、貴会の取組のますますの充実と本県の特別支援教育の発展を祈念しております。

令和5年度 県特支研 役員

※敬称略

会 長	江口 滋 (鏡 淵 小)		
副 会 長	泉 豊 (南本町小)	山崎 陸子 (裏 館 小)	阿部 隆一 (新潟市立東特別支援)
理 事	村治 隆夫 (新井中央小)	山賀 吉一 (田 尻 小)	五十嵐恵一 (千 手 小)
	吉田 孝則 (今 町 小)	竹垣 雅彦 (北 辰 小)	田中 恒夫 (新津第五中)
	間嶋 哲 (新津第一小)	土田 学 (万代長嶺小)	田中 修二 (女 池 小)
	小野沢謙一 (外ヶ輪小)	佐藤 進 (岩 船 小)	山崎 浩志 (五 泉 小)
	中川 久雄 (真 野 中)	小林 俊明 (はまなす特別支援)	
月岡 秀也 (見附特別支援)	佐々木裕一 (西蒲高等特別支援)		
会計監査	冨永 浩文 (糸魚川小)	内藤 貴志 (新 町 小)	鈴木 正彦 (水 原 小)

令和5年度 県特支研 評議員

※敬称略

上 越	長谷川和彦 (飯 小) 勝俣 将明 (雄 志 中)	柏 崎 ・ 刈 羽	廣川 乘 (日 吉 小) 宮崎 隆史 (西 山 中)
糸 魚 川	松岡 貴徳 (能 生 小)	妙 高	梅川 智子 (妙 高 小)
長 岡 ・ 三 島	中島喜美子 (栖 吉 小) 菊地 一秀 (大 鳥 中)	三 条	池田 岳康 (長 沢 小) 田村 和弘 (第 一 中)
燕 ・ 弥 彦	坂内 克明 (燕 西 小)	加 茂 ・ 南 蒲	佐藤 智昭 (田 上 小)
見 附	稲田 修 (名木野小)	小 千 谷	高橋 豊 (小千谷市立総合支援学校)
十日町・中魚	山川 和子 (川 治 小)	魚 沼	江田 浩 (広神西小)
南 魚 沼	井口 秀夫 (湯 沢 中)	新 発 田	磯部 裕之 (猿 橋 小)
北 蒲	藤井 政明 (蓮 野 小)	胎 内	鈴木 真史 (きのと小)
村 上 ・ 岩 船	櫻井 雅之 (関 川 中)	五 泉	佐藤 元 (五泉北中)
阿 賀 野	樋口 憲哉 (堀 越 小)	東 蒲 原	高松 豊 (津 川 小)
佐 渡	安藤 博通 (加 茂 小)	新 潟 ・ 北 区	川又 由香 (岡方第一小)
新潟・東区	藤塚 静治 (江 南 小)	新潟・江南区	鈴木 勉 (山 潟 小)
新潟・江南区	岡田 義則 (早 通 小)	新潟・秋葉区	松島慎一郎 (小 合 小)
新潟・南区	中川 日里 (小 林 小)	新潟・南区	佐久間郁子 (山 田 小)
新潟・中央区	石川 潤 (坂井輪中)	新潟・西区	藤崎 直子 (升 潟 小)
新潟・西蒲区	本多 豊 (岩 室 中)	視 覚 障 害	岡村 浩之 (よつば学園)
聴 覚 障 害	生方 清司 (県立長岡聾)	病 弱	森田 隆行 (県立吉田特別支援)
肢体不自由	中静 康弘 (県立上越特別支援)	知 的 障 害	樋口 尚 (新大附属特別支援)

県特支研のホームページをご覧ください

県特支研の役員、事業、会報などの情報
や特別支援学校へのリンクはこちらです。

地区大会や研究部研修会の情報はこちら
から。

全特連関プロ大会等の様子を紹介します。
全特連HPへリンクされています。その他、
新潟県の特別支援教育に関する情報をお伝
えます。

URL <http://www.niigata-inet.or.jp/kentakusiken/>

E-mail tokusi@niigata-inet.or.jp

令和5年度 各研究部研修会の活動報告

自閉症・情緒障害部 事務局：長岡市立千手小学校

今年度は、和歌山大学名誉教授の武田鉄郎先生より「叱らないけど譲らない 提案・交渉型アプローチの効用」と題してご講演いただきました。

当日は、「子どもはこうあるべき」「この子にはこうしてほしい」という自分の価値観に子どもを当てはめるのではなく、子どもの困り感に寄り添い、理解することが大切であること。そして、その上で、支援者は子どもに迎合するのではなく、子どもの立場で選択肢を用意して提案交渉していくこと。決定権を子どもにゆだねることなど、夏休み明けの実践に直結する研修会となりました。

知的障害部 事務局：新潟市立新津第一小学校

8月24日に月ヶ岡特別支援学校見附分校教頭の高橋悟様より「知的障害のある子どもに応じた指導を考える～「幸せに生きる」を支えるために、今できること～という演題でご講演いただきました。長年現場で知的障害のある子どもとかわってこられた講師先生の具体的な実践をお聴きすることができ、有意義な研修会となりました。講師先生の教え子・卒業生、保護者の率直な声を映像を交えながらお伝えいただくことで、子どもたちへの声の掛け方やかわり方等、今後の実践につなげることができました。

言語・難聴部 事務局：新潟市立万代長嶺小学校

8月1日に東京学芸大学現職教員支援センター機構名誉教授の相伴潔様より「子どもの言語発達の支援について—学齢版言語・コミュニケーション発達スケール(LCSA)に基づいて—」というテーマでZoomを用いてご講演をいただきました。

言語発達に課題のある児童へのLCSAを用いたアセスメントについて丁寧にお話をいただき、理解を深めることができました。また、アセスメントに基づいた指導方法についても教えていただき、すぐに実践につながる有意義な研修会となりました。

視覚障害部 事務局：新潟よつば学園

今年度は、新潟医療福祉大学教授で視能訓練士でもある石井雅子様よりご講演いただき、「視覚障害教育」を担当する教師として必要な眼や見え方に関する基本的な知識、眼疾などに関する研修会を行いました。視力はもちろん、学習や生活で大きな影響を与える「視野」についての解説があり、子どもの視野を知っておくことが支援をする上で大切であるとの話をいただきました。担当する児童生徒の見え方について理解を深め、見え方に応じた支援の手立てや工夫、環境整備について学ぶことができました。

○今年度の肢体不自由・病弱・身体虚弱部（事務局：見附市立今町小学校）の活動は、次号に掲載予定です。

県特支研だよりNo.「127号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。（事務局）